

活動分野	森に親しむ懇談会（もりこん157）		
タイトル	樹木に興味をもってもらうあの手この手		
実施日時	平成30年10月18日（木）18：45～20：45		
実施場所	船橋市中央公民館第2集会室		
受講者	20名	FIC会員他スタッフ	18名

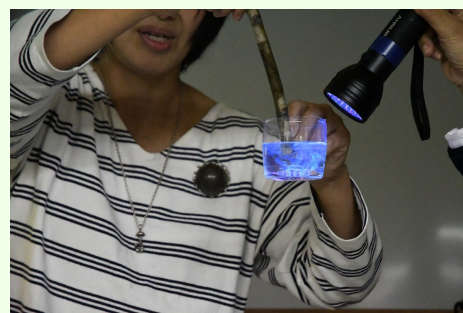
活動の内容 子どもたちなどに樹木に興味をもってもらうための「あの手、この手」

森林インストラクターの活動で、対象が子どもたちである場合や、特に樹木や森林に興味を持っている一般の方々である場合、いきなり、森林の役割の大切さや多様な生態系、林業や山村の課題などについて語っても、興味が無い限り、相手に伝わらない。

まず、樹木に興味をもってもらうことから始めるのが有効。

「ツカミ」そのために様々な工夫やワザ、あの手この手を使って、興味をもってもらうことが必要。

右上の写真：アオダモの枝を切って水につけ、紫外線をあてると青く光り、蛍光物質が溶け出しているのがわかる。アオダモは蛍光ペンに使える。ぬり絵をしてもらうと興味が湧く。



左の写真：ナツメの葉を1枚口に入れて噛むと舌が甘さを感じなくなる。金平糖を一粒噛んでみると砂や石を噛んでいるような感覚になる。子どもに体験させる場合は親がいて了解を取る必要。

その他、ヤマザクラの枝をムクノキの葉で磨くと、樺細工のようにきれいに艶がでる。子どもも、おとなも結構はまる。

タラヨウやセイヨウバクチノキ、トウネズミモチの葉の裏に楊枝で字を書く。葉書の体験。

エゴノキの実・トチの実・サイカチの豆のサヤ・ムクロジの実などは、潰して、水を入れたペットボトルに入れて、シャカシャカ振ると、泡立つ。白い布を汚して中に入れて、石けんとして使えることを体験する。今の季節はカツラの葉の匂いが「日だまりの匂い」などなど。

様々な木を使った実習を次々に体験すると、樹木に興味を持つ。そこで、熱心な参加者は、いろいろな樹木に興味を持ち始める。ここで、樹木の名前や仕組み環境の話題、外に出て樹木観察、樹木の前で森林の話に展開も可能。林業の話をしたときは、スギとヒノキの枝葉や板を用意する。匂いや手触りを感じると、スギやヒノキにも興味を持つ。話を林業へつなげる切っ掛けとする。

女性と男性とで、興味の示し方が異なる。女性は、フワフワ・ザラザラ・キラキラなどの感触を楽しみ、それだけで感動し、これを切っ掛けに話が展開できる。男性は専門用語と理屈を聞くことで満足する人が多い。相手によって、手を変え、品を変え、あの手この手で、興味を持たせることが必要。

